

フェルメールの魅力に迫る

～10月27日、名画セミナー「フェルメール」開催～

フェルメールは、1632年、オランダのデルフトに生まれ、画家として活躍しました。現存する作品は35点とも言われ、作品の素晴らしさと希少性の高さも相まって、世界的にも屈指の画家として注目を集めています。

日本では2000年に大阪で開かれた展覧会を機に関心が広がり、21世紀に入って人気は加速したようです。その後に開催されたフェルメール展では、絵を一目観ようと列ができ、1時間ほど並ばないと美術館に入れない時もあったそうです。なぜ、フェルメールは人気があるのでしょうか。キュレーターのエリザベツ・カネコさんに伺いました。

フェルメールの絵は、見る人がもっとも落ち着いて、部屋の情景を、優しい光を、女性の仕草を見ることができるよう、フェルメール自身が模索を重ね、構図や色を決めながら描いているのではないかと思います。

(X線写真の調査で、一度描いたものを消して、描き直したりしていることが判明しております)

私は、フェルメールが丹誠を込めて描いたからこそ、実現した世界ではないかと思っています。ちょっと感情的な拡大解釈になってしまっていますが、フェルメールが心込めて描いたので、見る人に安らぎを与えたのではないかなと思います。あんまり明確な解答になっておらずすみません。画家として色感が優れている、描写力がある、センスがある、など、ずば抜けた才能ももちろんあると思います！

10月5日から日本最大の「フェルメール展」が上野で開催されます。当会館は、10月27日、人気キュレーターエリザベツ・カネコさんによる第7回名画セミナー「フェルメールの世界」を開催し、来日する作品9点について、どんな特徴があるかなど、見所を解説しながらその魅力に迫ります。この名画セミナーで、よりフェルメールについて理解を深め、鑑賞の一助にいただければ幸いです。

《エリザベツ・カネコさんの著作本／講談社》



2017. 6.10 (土) 第6回名画セミナー「名画の楽しみ方いろいろ」より